

2025 年度 茨城キリスト教大学大学院
生活科学研究科 心理学専攻
I 期 入学試験問題

【専門科目】

試験時間 13:45 ~ 14:45 (60 分)

諸注意

1. 試験監督者から「開始」の指示があるまで、この冊子をめくってはいけません。
2. 解答を始める前に、必ず解答用紙の所定の欄に受験番号を記入してください。
3. 試験内容に関する質問は受け付けません。問題用紙はこの表紙を除いて 3 枚、下書き用紙は 1 枚、解答用紙は 1 枚です。印刷上の不備があった場合などは手をあげて監督者に知らせてください。
4. 試験中に気分が悪くなったときなどは、手をあげて監督者に知らせて下さい。
5. 試験終了後、問題冊子は回収します。持ち帰らないでください。

問1. 以下の問題に解答せよ。

① 正しいものを一つ選びなさい。

- a) Heider, F. が対人関係の原理の一つとして提唱したのは認知的不協和理論である。
- b) 子どもの知的発達の水準を二つに分けて考え、発達の最接近領域を提唱した心理学者は Piaget, J. である。
- c) 他者がある側面で望ましい特徴をもっていると、その評価を当該人物に対する全体評価にまで広げてしまう傾向のことをハロー効果という。
- d) 人間の記憶システムにチャンキングの考えを導入したことで有名な心理学者は Baddeley, A.D. である。

② 正しいものを一つ選びなさい。

- a) ある刺激に条件づけられた反応が、他の刺激に対しても生じることを消去という。
- b) 精神物理学の創始者として有名な心理学者は Fechner, G.T. である。
- c) ダーウィンの進化論の影響を受けて、遺伝学を背景にして個人差や天才の問題に取り組んだ心理学者は Binet, A. である。
- d) 双生児統制法による実験研究を行い、発達における成熟優位説を説いた心理学者は Thorndike, E.L. である。

③ 正しいものを一つ選びなさい。

- a) 人が加算作業を行うスピードの変動のしかたを指標として、個人の性格特性や意志の働きの現れを理解しようとする心理検査は言語連想テストという。
- b) Murray, H.A. らによって創案され、31 枚の絵画図版を用いて物語をつくらせ、人格構造を分析する心理検査はベンダー・ゲシュタルト検査である。
- c) Koch, K. によって考案された描画法検査は HTP という。
- d) Y-G 性格検査の基盤となる性格理論は特性論である。

④ 正しいものを一つ選びなさい。

- a) ある時点でデータを収集し、その後、一定の期間を経て再度同じ対象にデータを収集する調査方法は横断研究という。
- b) 独立変数ではないが、従属変数に影響する要因を剰余変数という。
- c) 測定しようとしているものをどの程度適切に測定できているかという妥当性は基準関連妥当性という。

- d) 評定尺度法などで、項目に対する回答を奇数段階で求めた場合、真ん中の選択肢が選ばれやすい傾向のことをキャリーオーバー効果という。

⑤ 正しいものを一つ選びなさい。

- a) インフォームド・コンセントには、「自己決定権」、「主導権」「還元義務」の3要素からなっており、いずれの一つでも不十分であっても成立しない。
- b) Caplan, G.は公衆衛生の予防概念を精神保健の分野に取り入れたが、早期発見と早期治療を第一次予防とした。
- c) 危機介入は可能な限り早くクライアントが崩したバランスをもとの状態に回復させることを目的としているため、面接は長期間にわたり行うことが基本となる。
- d) エンパワーメントの機能を最大限に活かす援助の形態として、自己決定の機会が豊富な自助グループがある。

⑥ 誤っているものを一つ選びなさい。

- a) 「反動形成」とは、自我にとって受け入れがたい本能衝動の意識化を防ぐために、その衝動と反対方向の態度を過度に強調する機制のことである。
- b) 「投影」とは、自分の内面（内的表象）の一部を自分から切り離した他者（外的表象）に置き換える機制のことである。
- c) 「躁的防衛」とは、個人が知覚はしているが、それを自分で認めてしまうと不安を引き起こすような現実をそのまま現実として認知するのを拒否する機制のことである。
- d) 「退行」とは、現在の状態より以前の状態へ、あるいは未発達な段階へと逆戻りする機制のことである。

⑦ 誤っているものを一つ選びなさい。

- a) 来談者中心療法は Rogers, C.R.によって提唱された心理的アプローチである。
- b) 来談者中心療法においては治療者の態度として、自己一致、無条件の肯定的配慮、深層心理の理解を重視した。
- c) T グループの理念は Moreno, J.L.に求められるが、社会に適応している人の感受性や人間関係能力の再教育を、体験的な学習によって実施するものである。
- d) フォーカシングは、Gendlin, E.T.が開発した心理療法および自己理解のための視点と方法のことである。

⑧ 誤っているものを一つ選びなさい。

- a) Axline, V.M.は子どもの自己治癒力を最大に生かすために遊戯療法における 8 原則を提唱したが、第 1 番目の原則は必要な制限を設けることとした。
- b) 箱庭療法のもとになったのは、子どものための心理療法として、1929 年に Lowenfeld, M.によって創始された世界技法である。
- c) 家族療法は、家族を一つのまとまりをもったシステムとみなし、それが抱える心理的問題を臨床実践の対象としている。
- d) 内観療法での内観とは、自分にとって重要な人物との関係を、①お世話になったこと、②（お世話を）して返したこと、③迷惑をかけたこと、の 3 点に絞って具体的に調べることである。

問 2. 以下の問いに答えなさい。

- 1) 心理的アセスメントの目的と方法について説明した上で、それらを他機関と情報共有する際の留意点を述べなさい。
- 2) Covid-19 により明らかになった今日の日本の社会における脆弱性と心理専門職の役割とを関連付けてあなたの考えるところを述べなさい。

2025 年度 茨城キリスト教大学大学院

生活科学研究科 心理学専攻

I 期入学試験

解答および解説

問 1.

①	②	③	④	⑤	⑥	⑦	⑧
c	b	d	b	d	c	b	a

問 2.

1. 解説

大問 2 は、ふたつの論題から構成されています。いずれも解答にあたっての字数の目安は示されていませんが、過去の問題と照らし合わせると、400 字前後を目標に記述できるとよいでしょう。後に解答例を示しました。参考にしてください。

解答にあたっては、量的および質的観点のふたつの視点をもつとよいでしょう。量的観点には、先に示したような一定量の記述が伴うことに加えて、誤字脱字や口語表現がないこと等が重視されます。また専門用語については、特に表記に誤りのないことが求められます。なお著しい悪筆や解読困難な解答は、採点の対象にならないことがあります。丁寧な記述を心がけましょう。一方、質的観点としては、設問に対して専門的学びを積極的に活用して解答することが求められます。問われている内容に応じて、次のような視点をもって解答できるとよいでしょう。

(1) 論理的整合性（段落構成の適切さ 論旨の明確さと一貫性等）

(2) 専門的整合性（専門的知識と技術を活用し、問いに対して心理的支援の専門性の観点から適切な解答を導くことができる。その際、心理専門職の職責としての関連法の理

解と遵守、連携協働等についての言及や視座がみられる)

- (3) 内省的態度(支援者として要支援者の権利をまもり、その主体性を尊重した支援を実践するために自己覚知や自己研鑽が重要であることへの言及や視座がみられる)

さらに本学では、建学の理念に基づき、次に示すような点を重視しています。

- (1) 公正性(人間に対す対等性と人権尊重)
- (2) 多様性(人間に対する寛容性 差別的排他的態度がみられないこと)
- (3) ボランティアズム(他者、社会と積極的、主体的にかかわる態度)

これらを踏まえ、解答においても要支援者の権利性を遵守する態度とともに、現代社会における心理社会的課題の達成にむけて自ら働きかける主体性と志向性を示すことができるとよいでしょう。

2. 解答例

- 1) 心理的アセスメントの目的と方法について説明した上で、それらを他機関と情報共有する際の留意点を述べなさい。

心理的アセスメントの目的は、要支援者に対する理解を深め、その支援にあたって必要な情報と方法を明らかにすることである。心理的アセスメントは、要支援者を多面的に理解するために複数からのアプローチ、すなわちマルチメソッド方式が望ましいとされている。具体的には、心理面接(面接法)、心理検査(検査法)、行動観察(観察法)、(家族や関係機関等からの)情報の収集などがある。

心理的アセスメントは、状況に応じて、適宜、修正や更新が図られる。またその結果については、要支援者である当事者(児)とともに(状況に応じてその)ご家族への適切なフィードバックと共有が治療的効果を高めるとされている。そのため支援者には、要支援者がアセスメントの結果を肯定的に受けとめ、自らが主体となって治療に参加する意欲を高めることができるように当事者(児)のストレングスを含め、アセスメントの結果を分かりやすく伝えることが重要である。

さらにアセスメントの結果を他機関と情報共有する際には、当事者(児)のプライバシーや個人情報の保護とともに人権の尊重を重視した対応が求められる。具体的には、他機関との情報共有の必要性について当事者(児)に丁寧に説明し、同意を得るとともに、情報の管理と伝達方法については、セキュリティが確保された手段を用いる。

なお、希死念慮の高い状況や被虐待児童の安全確保や保護においては、命をまもることを最優先して医療等の専門機関へ引き継ぐ場合がある。支援者は、これらの対応の指針となる関連諸法に精通し、関係施設機関と連携して対応することが必要である。

- 2) Covid-19により明らかになった今日の日本の社会における脆弱性と心理専門職の

役割とを関連付けてあなたの考えるところを述べなさい。

Covid-19 は、日本の社会における**脆弱性**を多方面に渡って露呈させた。それらに関する具体的な出来事を取り上げながら、これからの社会において心理専門職が国民の心の健康の保持増進に寄与するという役割を果たすための課題を述べたい。

コロナ禍には、外出の自粛や制限、休校措置や仕事のリモートワーク化によって在宅時間の増加が顕著となった。それによって、家庭内ストレスやDV、児童虐待等の発生リスクが高まったとされている。実際に、コロナ禍以降、児童虐待相談対応件数やDV相談件数は増加している。心理専門職は、これら要支援者（児）のニーズを早期に発見し相談支援につなげるべく、関係する施設機関との連携協働を強化する必要がある。あわせて、要支援者の孤立や介入の遅延による問題の深刻化を防ぐため、相談先の拡大や相談へのアクセスの簡易化といった物的環境の整備に参画する役割も期待される。さらに、SOS 発信にかかわる心理教育の実施も有効であると考えられることから、今後、心理専門職には、児童生徒にむけた心理教育の充実と実践機会の拡大を図る役割も期待される。

またコロナ禍には、SNS を介しての誤情報の流布によって社会における集団不安が増幅し、差別や偏見が誘発されたことも記憶に鮮明である。今日、社会全体において目指されている情報リテラシーの推進とともに、心理専門職に求められる役割として、不安やストレスの理解と対処法を学ぶ心理教育の実践と充実が挙げられる。

これらのように Covid-19 がもたらした混乱は、日本社会の脆弱性を可視化することになった一方で、国民の心の健康の保持増進をめざす心理専門職の役割と課題を鮮明化にすることにもなった。多様化と複雑化が進む社会において、また次なる危機への備えとしても、心理専門職に求められる役割をしっかりと捉え、そのために必要な研鑽を重ねていくことが必要である。